播磨時報

《発行所》
播磨時報社
本　社／〒670-0955
姫路市安田4丁目33-9
TEL.（079）281-0545
FAX.（079）285-0094
郵便振替／口座・00930-4-31250
旬刊発行／毎月1日・11日・21日
購読料／月額550円 年間6,600円

ボトル to ボトル　ゼロカーボン宣言の姫路市

域内リサイクルで全国初の協定

キンキサインや伊藤園などと

ペットボトル域内リサイクルで協定を締結した4者

自然界で分解されにくいプラスチックごみの削減が世界的課題になっていることを背景に、姫路市で8月23日、全国初となるエリア完結型「ボトルtoボトル（BtoB）」リサイクル実現に向けた連携協定が結ばれた。姫路市と清涼飲料水の地元メーカー「キンキサイン」（同市豊沢町）、緑茶飲料おいしいお茶ブランドが人気の「伊藤園」（東京都）、ペットボトルをリサイクルして樹脂製造する日本最大の工場を持つ「遠東石塚グリーンペット」（茨城県）の4者が連携し、同市内で排出された使用済みペットを新しいペットへと水平リサイクルする資源循環フローを確立するのが目的。今年2月にキンキサインの山口祖廣社長が姫路市リサイクル課の名物課長補佐（通称・もったいない本部長）に打診し、話がまとまった。

具体的には、姫路市のごみ処理施設エコパークあぼしで回収・手選別・圧縮（ベール化）した使用済みペットを遠東石塚が分子レベルで浄化して再生ペット用の樹脂を製造、キンキサインが神河町に置く工場で再生ペットを製造すると同時に飲料をOEM生産、最終的に伊藤園が姫路を中心に関西圏で製品販売していく。2022年4月から取り組みをスタートし、姫路市が広域連携する周辺自治体にも順次参画を呼びかけていくという。

また、遠東石塚は当面は茨城工場で再生ペット用樹脂を製造するが、2023年4月には世界最大級の設備を誇る姫路工場（同市飾磨区今在家）を稼働する予定にしており、同年1月から同工場でベールの受け入れを始める。

日本のペット再生率は約86％と世界最高水準だが、回収された使用済みペットが国内で再びペットとして水平リサイクルされている割合は12・5％に留まり、多くはシートや繊維などボトル以外に再生利用されている。しかも、一旦ペット以外に再生利用されてしまうと再びペットに戻すことは技術的にも困難で、最後は焼却処分するしかない。その点、BtoBリサイクルはペットに繰り返して再生できるため、新たな化石由来資源の使用量や廃棄物の削減につながるだけでなく、新品材のペットと比較して約6割のCO2排出量の削減が期待できるという。

姫路市は2050年までにCO2実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を今年2月に宣言しており、協定締結式で清元秀泰市長は「この取り組みをSDGs未来都市・姫路がさらに発展する契機としたい」と力を込めた。